



人が笑む、街も笑む。  
マーチング委員会情報誌  
[プラス・エム]

2020. 8



### 今号の街／山梨県中央市(旧田富町)

作品タイトル:「中央市田富地区の圃場から見た富士山」 作家:上野啓太

当社の子会社「たのみ農園」が管理する田圃から見た富士山です。田植えを終えた田圃に映る青い空、富士山が山々の上から見おろすようにいらっやいます。凜とした姿はいつも見慣れているはずの我々でも思わずハッとする時があります。後ろに見える建物は田富第一保育園です。こんな風景を当たり前に見ながら育つ子供たち。幸せを実感させてくれる一枚になりました。「一期一会」今日見た富士山には二度とお会いすることができません。上野画伯のイラストには、そんな言葉がよく似合います。



カバーアートの街で活動する  
『甲斐の国マーチング委員会』の  
情報を裏表紙でご紹介します! ▶▶▶

特集：マーチング活動事例紹介❶ さめきマーチング委員会  
まちなみイラストの魅力を最大限に活かして、成果を生み出す

特集：マーチング活動事例紹介❷ やまがたマーチング委員会  
コロナ禍の地域支援の礎となったマーチング活動

マーチング委員会「日本全国おすすめ情報」  
地域活性の取り組み紹介「キラリ輝く地域メディア」

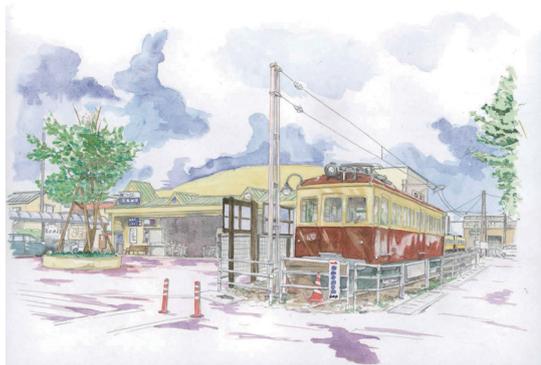


一般社団法人  
**マーチング委員会**®



香川県 高松市  
さぬきマーチング委員会  
代表：宮寄 佳昭

## まちなみイラストの魅力を 最大限に活かして、成果を生み出す



ことでん仏生山駅前(ぶっしょうざんえきまえ)レトロ電車

### 1枚のイラストから始まった 大きな商機

香川県ことでん瓦町駅直結、複合商業施設「瓦町 FLAG」は、ランドマークであり、人々の拠りどころとなっている。この館全体の運営のお手伝いをしているのが、さぬきマーチング委員会を運営している印刷会社ミヤプロだ。

そこに至るには長いストーリーがある。さぬきマーチングの活動の中心は、社長の宮寄さんと営業の香西さんで、年齢はかなり離れているが、二人とも同じ仏生山町(ぶっしょうざんちょう)の小学校、中学校の同窓生。仏生山町には、昔からことでんの電車の車庫があり、電車まつりもずっと行われているのは

知っていた。

そして、香西さんは結婚して子どもができてから、子連れで電車まつりに行くようになった。そこで知り合ったことでんの方々に提案したのが、電車を描いたまちなみイラストだ。「すごくいい」と好評で、電車まつりの会場でまちなみイラストの展示やハガキなどグッズの販売を行うようになる。こうした関わりは2013年頃から始まったと振り返る。そのうち、記念切符の制作など仕事へと繋がりはじめた。

そして、3年前、瓦町FLAGの仕事のコンペに声がかかる。企画提案したところ、企画内容の評価とともに、地元のこと及びことでんをよく知っているということも強みとなり、年間契約の仕事の受注となった次第である。その金額は2500万

円。1枚の電車のまちなみイラストから始まった大きな売り上げだ。

### まちなみイラストで地域の 魅力全開

瓦町FLAGのチラシ制作においては、各テナントの取材、撮影なども全てミヤプロが担当。となると、各テナントとのコミュニケーションが増え、相談されることも増えていき、そこからまた新たな仕事生まれる。

「長くマーチングの活動をやってきて地域に密着した活動が喜ばれている手応えがやりがいとなっていました。それが結果的に仕事の売り上げに繋がりを、うれしいですね。これからも地域の



ために、という思いが一番です」と宮崎さんは微笑む。

瓦町FLAGには、キッズ会員やシニア会員の仕組みがあり、50歳以上のシニア会員になった方にはマーチングの絵ハガキの中から好きなものを1枚プレゼントしているそうだ。一番人気があるのは、栗林公園のイラストのもの。栗林公園は、ミシュラングリーンガイドジャパンで最高の三つ星を取得し、2019年のトリップアドバイザーで「日本で行きたい場所」として唯一選ばれた名所でもある。そうした地元で馴染みの風景をマーチング委員会でおなじみの上野さんが描いたイラスト



栗林公園 掬月亭（きくげつてい）

は大変好評だ。

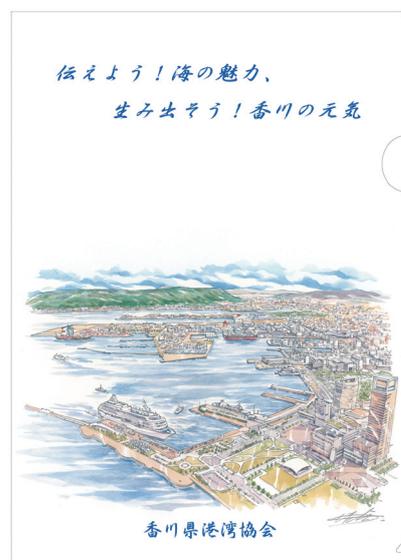
名刺などに採用されるだけでなく、「このイラストいいですね。このイラストで他のものも描いてもらえますか?」という問い合わせもくる。それに対応した事例が、香川県港湾協会から依頼され上野さんが描き起こしたサンポート高松や、香川県河川協会のクリアファイルだ。このようにイラストを描く依頼から受注するケースも増えるようになった。

実は、さぬきマーチング委員会のイラスト点数は16点。これだけの枚数で、いろいろなイベントをやってきたのだという。栗林公園での春と秋のイベントではいつもイラスト展示とハガキやうちわや付箋などのグッズを販売し、電車まつりなどにも出店を行ってきた。だから、イラスト点数は少ないながら、地元でのまちなみイラストの知名度は高いのだ。

今後はイラストを増やしていくことも課題としている。



香川県河川協会



香川県港湾協会

香川県港湾協会から依頼され上野さんが描き起こした百景のクリアファイル

### かがわSDGsアワード審査員特別賞受賞

2019年12月、「第1回かがわSDGsアワード」において、さぬきマーチング委員会の活動は「審査員特別賞」を受賞した。ずっとマーチングの活動を見てきてく

れた高松青年会議所の方から、こういうSDGsの評価があるから応募したらどうかと声をかけていただいたのだという。この「かがわSDGsアワード」は、県内企業のSDGsの取り組みを紹介し称えることを趣旨とし、香川県庁や高松市役所なども後援している。

マーチング委員会としても内閣府SDGs地域創生官民連携プラットフォームの一員になっており、SDGsを目指す目標として取り組んでいるが、その実績の一つになると言えるだろう。■



### POINT! 「小さなことから一歩ずつ」

「いきなり大きな企画を持っていくよりは、名刺にまちなみイラストを入れませんか、ということを引きかけにして新規のおつきあいを始めるところを大事にしてみました。のちの売り上げに繋がるストーリーが作れるように自分の中でイメージしながら動いています」と営業の香西さん。営業は足で稼ぐと言われるが、それを実践しているのが香西さんと社長の宮崎さんは評価する。県庁、市役所、商工会議所、郵便局などをこまめに回って顔を出すのは基本。そうしていると、現場の情報が入ってくる。予算が余っているから何か提案してくれ、と言われて、まちなみイラストを絡めた企画を提案し喜ばれることもある。瓦町FLAGの2500万円の売り上げも1枚の電車のイラストから始まったという初心を忘れない。



山形県 山形市  
やまがたマーチング委員会  
代表：大風 亨

## コロナ禍の地域支援の礎となった マーチング活動



山形県郷土館「文翔館」

### 市内の全小中学校に マスクケースを無償配布

やまがたマーチング委員会は2013年1月の発足以来、ユニークなアイデアで幅広い活動を続けてきた。酒販免許も取得し、ラベルにまちなみイラストを用

いたワインや日本酒の企画提案から販売までを行うなど、地域の方々に喜ばれてきている。やまがたマーチングの活動を行っている大風印刷では、大風社長と営業2課の加藤さんと渋谷さんが主に関わっている。

さて、新型コロナウイルスの感染により

人々は不安に晒され、多くの業界が経済的打撃を受けている。手洗いの励行、マスクの着用、人との距離をとるなどを定着させた新しい生活様式のもと、withコロナの日常を進めていかななくてはならない状況の中、ある活動が生まれた。

そのきっかけは、ある日、渋谷さんが「子どもたちが給食を食べる時に外したマスクをビニール袋に入れている。あまり衛生的じゃないよね」と言ったこと。それに加藤さんが「うちは抗菌のマスクケースを作っている。だったら、それを子どもたちに提供したいね」と応じた。そして、県のPTA連合会会長だった親しい方にその企画を相談したところ、長年PTAの役職を務めている方を紹介していただき、さらにいろいろな企業にも声をかけ、「やりましょう」ということになった。準備期間約1カ月で、山形市内の企業や団体25の協賛により、市内の全小中学校に23000個のマスクケースを無償で配布した。



山形市内全小中学生に配布した抗菌マスクケース



マスクケース贈呈式にて佐藤市長(右)と大風社長(左)



自社だけではできない規模の大きい活動だが、マーチング活動を続けてきたことにより得られた繋がりがここでおいに活かされたのだという。

約7年のマーチングの活動によって、それまで取引がなかったりあまり親しくなかったりした団体や企業とこんなにもいい関係ができていたんだ、と実感する機会にもなったそうだ。



フェイスガード



消毒用アルコール パストリーゼ77



大風印刷で販売している抗菌マスクケース

## コロナ感染対策グッズにより、 地域を支援

このマスクケースは、もともと、LIMEX（ライメックス）という新素材でチケットホルダーを製作していたことがヒントになった。LIMEXは原料の約60%が石灰石からできておりプラスチックの代替品として環境への負荷を軽減し、SDGsにも合致している。大風印刷は東北エリアでいち早くLIMEXを導入しており、それもアドバンテージとなって、コロナ禍において、マスクケースという新たな商品が誕生した形だ。

他にも、フェイスシールドやアクリル板の衝立など、コロナ対策の商品を取り扱っているが、自社で生産していないものでも地域の方々の役に立てるのであれ

ば、と仕入れて薄利で販売している。

マーチング委員会の活動を機に酒販免許を取得しておいたことも活かされた。酒造会社で作っているアルコール度数77%の消毒用アルコールを仕入れて

安価で販売しているのだ(消毒用としてのアルコール度数は70%以上と規定されている)。

コロナの収束はまだ見通しが立たず、こうした感染対策の商品のニーズ対応はまだ当分続くだろう。いわば非常時であるが、マーチングの活動が形を変えて地域とともにあることは新たな実績となっているのではないだろうか。

## withコロナ、afterコロナを 見据えて今できること

コロナ前は、YORIPを使い、うなぎトラベルも絡めて、山形県天童市の魅力を発信してきた。特にYORIPを使ったスタンプラリーは好評だったが、2月頃からコロナの影響が出てきて、こうした活動は中止されたままだ。

しかし、この状況が永遠に続くわけではない。

コロナの完全な収束は難しくてもコロナとともにいかに社会活動を行っていくか、いかに人が人らしく生きていくかは、模索しながら新しいスタイルを作っていくなくてはならない。そこにも、これまでまちなみイラストを活用したさまざまな商品開発を行ってきたアイデアマン揃いのやまがたマーチング委員会らしさが生きてくると期待したい。■

## POINT! 「聞いて、必ず形にする」

「お客様の声を聞くことをいちばん大事にしています」と営業の加藤さんは語る。特に用事がなくてもお客様のところに顔を出して、いわば茶飲み話のような時間を持つことで、今何に困っているか、どんなニーズがあるかを把握するようにしている。その上で、相談されたことに対しては必ず何か形として提案を持っていくことにこだわる。もしもそれが実現に至らなかったとしても、「こちらの話をちゃんと聞いて何か提案を持ってきてくれた」というお客様の信頼の積み重ねにより、「何かあったら相談できる」存在として確立されていく。マーチング委員会とは、地域密着そのものだから、地域のお客様のところに「最近どうですか?」と定期的に顔を出すことが実は活動を発展させていく重要なパワーの源になっている。



山形県 酒田市  
しょうない マーケティング委員会

## 庄内平野の美味しいお米から生まれた さっくり軽い薄焼きせんべい

オランダせんべい



理想の生地を追求して生まれた、日本一長いおせんべい工場。オランダせんべいFACTORYの全長は約395m、工程全長はなんと約750mもあります！

### おらだのお米でつくった おらだのせんべい



昭和26年から始まった酒田米菓のせんべい作り。当時のせんべいは醤油味の厚焼きばかりで、何枚か食べればお腹一杯になってしまうのが課題でした。そこで、何枚食べても飽きないような新しいせんべい作りへの挑戦が始まります。そうして誕生したのがこれまでになかった薄焼きの「オランダせん

べい」。名前に由来する地元の方言「おらだのせんべい」の通り、長く愛される東北自慢のソウルフードとして、人気のロングセラー商品となったのです。

酒田米菓株式会社(オランダせんべいFACTORY)  
〒998-0832 山形県酒田市両羽町2-24 <https://www.sakatabeika.co.jp/>  
TEL.0234-22-9541 オランダせんべいFACTORY専用ダイヤル 0234-25-0017



山梨県 中央市  
甲斐の国マーケティング委員会

## 丸みのある小粒でもっちりした 美味しいご飯を召し上がれ

たとみ農園の「ひのひかり」



お米は生き物ですから毎日丹念に手入れをすることが欠かせません。

### 毎日食べるものだから 贈り物にも喜ばれます。



ブランド米=美味しいお米と思っていませんか?もちろん銘柄も大切ですが、それ以上にお米の味の決め手となるのは、「環境」と「作り方」です。田圃は、人の手が入らないと一年で雑草の生い茂る荒地になってしまいます。たとみ農園の管理する田圃は全て、農業を続けていけない農家さんから借り受けたもの。そして、稲の生きる力を大切にするために

「特別栽培米基準」で育てています。毎日、丹念に田圃を見て回り水を管理し雑草を払う地道な作業により、本当に美味しいお米が出来上がります。この度、山梨県中央市のふるさと納税返礼品に採用も決定。小粒ながら粒に丸みがあり、モチットした食感を、ぜひお楽しみください。



たとみ農園  
〒409-3845 山梨県中央市山之神流通団地3-4-5  
<http://www.adovonext.com/okome/order.html>  
中央市ふるさと納税 <https://www.furusato-tax.jp/city/product/19214>

鍋島裕俊が選ぶ  
キラリ☆輝く  
地域メディア

皆さん、コロナ禍の中、新しい生活様式の模索の中、まさに「キラリ☆輝く」地域メディアとは、どんなスタイルなのでしょうか？観光地などを巡る「旅」のスタイルもコロナ禍の中、推奨されるスタイルとして「マイクロツーリズム」が言われ始めました。これは星野リゾートの代表の星野佳路さんが提唱しており、「ご近所発見旅行」のことです。30分～1時間で行ける範囲の旅行、意外と知っていない地元の再発見ツアーです。まさに、コロナ禍の3密を避けながら近場で過ごす旅のスタイルです。キーワードは「地域内観光」「地元の魅力を再発見!」「地域の方々とのつながり」です。

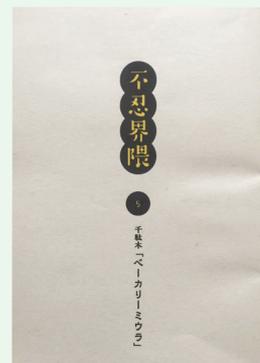


東京都 台東区

file No. 02

地元の「良きヒト・モト・コト」との出会い  
その魅力を紹介する『不忍界限』

『不忍界限』定価300円(税込) 不定期発行 編集発行人=橋本倫史  
取扱店は地元の往来堂書店・古書ほうろう



水俣病から地元を再生に繋げた「地元学」は、地域にあるものを見直す取り組みです。「水俣病」の水俣市を、この公害病を乗り越えて「環境都市」の先進地に変えたのは元水俣市の職員だった吉本哲郎さんで、「ないものねだりをやめてあるものを探し、地域の持っている力、人の持っている力を引き出し、あるものを新しく組み合わせ、ものづくり、生活づくり、地域づくりに役立てていく。それぞれの風土と暮らしの成り立ちの物語という個性を確認し、大地と人と自分に対する信頼を取り戻し、自分たちでやる力を身につけていく。」と提唱・実践し、「地元」再発見をしていきました。

これらの先例を参考にしながら、コロナ禍の新しいメディアのスタイルは、スモールエリアの再発見だと考えます。ただし、そこにはデザイン力、編集力が伴います。地元の「良きヒト・モト・コト」と出会って、その良さを紹介したいにも、デザイン力、編集力が無いと伝わりません。

今回は、まさにスモールエリアの良さを魅力的に紹介するものを、それも個人で、編集力がある方を紹介します。

『不忍界限』は、『月刊ドライブイン』などのリトルプレスを手がけた編集人・ライターの橋本倫史さんが、たまたま引越してきた「不忍通り」界限、千駄木・谷中・根津・池之端などの横路地に入ると、小さな商店が数多く軒を連ねていて、その一軒一軒が歴史もあり魅力的だったものだから、つい毎号1軒を紹介するリトルプレスを創刊したのが経緯です。そして橋本さん、このメディアが、町の魅力を発信するためのもの、という言い方ではなく、身近な場所にある風景に興味を向けるきっかけになれば、と謙虚に語っています。

3号は、「越後屋本店」。谷中銀座商店街にある「越後屋本店」は、店頭で

お酒が飲めることもあり、地元客にも観光客にも愛されています。創業は明治にまで遡る老舗の酒屋さん。

4号は、根津神社前にある「平澤剛生花店」。この花屋さんの店頭には並ぶ花の中には初めて目にする品種も多く、眺めているだけでも楽しい花屋さん。

5号は、根津神社前にある「ベーカリーミウラ」。美味しいパンで大人気の「ベーカリーミウラ」、営業は木曜から日曜までの4日間です。なぜ？

現物をリアルに読みたい方は、取扱い本屋さんに向かってください。

◎地域を、地元を、デザインしよう。編集しよう。これがコロナ禍の新しい生活様式に適した「+m」スタイルなメディアだと考えます。



Vol.5号で紹介されているベーカリーミウラ



鍋島 裕俊  
折込広告文化研究所 代表  
元 朝日オリコミ社長室長、メディア戦略アドバイザー

朝日新聞社系の折込広告会社に営業で入り、その後、出版、マーケティングを経て、現在、メディアの方向性を考える戦略セクションに所属。折込広告全国大会の分科会やセッションのプロデュースを担当。折込広告に関する過去の著作は、「商業界」「食品商業」「宣伝会議」「販促会議」「物価資料」など多数。

コロナ禍がマーチングメンバーにチャンスをもたらす!  
 「+m」読んでTTP(徹底的にパくれ)!

一般社団法人マーチング委員会  
 マーチングアカデミー塾 理事塾長 利根川 英二



新型コロナウイルスが日本国内、そして世界中で猛威をふるっています。マーチング委員会メンバー企業の大多数も4月の自粛から始まる経済活動の停滞によって大きな影響が出ていると聞いております。

「先義後利」は理解しているけど、それどころでないメンバー企業がほとんどだと思います。私どもの大会も開催できず、リアルなイベントは今年も延期や中止が続いています。こんな世の中になるはずじゃなかったです。とてもネガティブな気持ちのメンバーも多いと思います。しかし、このような時こそマーチング活動が大切です。

さて、私たちの「先義後利」の精神は皆さん理解されていますよね。

今、コロナ禍で一番苦労しているのは何処か皆さん想像してみてください。自粛で直接的に厳しいのは飲食店さんやホテルや旅館です。もちろん、病院などの医療機関も大変です。

このような時に皆さんがお持ちの地域イラストをレプリカにして進呈されてみてはいかがでしょうか。私たちにできることは地域の皆さんのまちなみイラストに触れていただき心癒していただくことです。もしくは「イラストハガキ」を差し上げてください。不要ですという方はいいと思います。

わたしも湯島本郷の地域医療を担っている東都文京病院さんにイラストハガキを差し上げました。

さらに、+mに掲載されている仲間の事例をTTPしていただき、行動に移してみてください。この+mに掲載していただいているマーチングメンバーはTTPし行動を起こし、結果を出しているということです。コロナ禍によってテレワークが当たり前になりました。通勤しなくても良いということが証明されました。政府自民党も東京一極集中の是非について再び議論が始まりました。地方分散化のチャンスが巡ってきています。

そのチャンスを是非、キャッチアップするためにも日頃のマーチング活動を仕事として繋げて行く大きなチャンスが目の前に訪れているのです。今がチャンスです! 成功を祈ります!

マーチング委員会[今後のスケジュール]

マーチング委員会公式ホームページ <http://machi-ing.jp/>

8/28(金)マーチングアカデミー塾 第2回ウェビナー(ZOOM)

『+m』各コーナーごとのマーチング委員会によるプレゼン/「居酒屋宮ちゃん」:交流会

10/16(金)マーチングEXPOin京橋 →Web開催(ZOOM)

基調講演:「成熟社会への脱皮と地方創生!」 講師:株式会社ロードフロンティア 代表取締役 並木 将央氏  
 『+m』創刊報告/「居酒屋宮ちゃん」:全国名産品紹介(予定)

11/6(金)アカデミー塾in庄内(酒田市) →来年度に延期



講演:並木将央氏

+m 創刊記念 [マーチングアカデミー塾 第1回ウェビナー] 動画配信中!

本誌+m創刊記念に行われたZOOMによるセミナーが、2020年6月10日(水)に開催されました。その記念すべき第一回の模様がYouTubeでご覧いただけますので、ぜひごチェックしてください。



表紙の街の委員会紹介

甲斐の国マーチング委員会 <http://www.adovonext.com/>



身近な風景のイラストをとおして、住んでいる地域の魅力を発信しよう!という気持ちを持ち続けて地道に活動しています。マーチング委員会の皆様に助けをいただきながらここまでやってこられました。本当に有り難うございます。今回+mの「日本全国おすすめ情報」に取り上げていただいた「たとみ農園」も地域を元気にするお手伝い企業です。全くの素人が始めた農業ですが、甲府盆地では一番大きな農地を持つ米農家になりました。これも地域の方々が支えてくださったお陰です。これからも微力ですが、我々にできることをやり続けていきます。

甲斐の国マーチング委員会

所在地 山梨県中央市山之神流通団地3-4-5

代表 井上雅博

企業HP 株式会社アドヴォネクト <http://www.adovonext.com/>

連絡先 055-273-6141